

先生が思う働き方改革と部活動の活性化



(土)(日)の生徒引率について、教員以外でも可能にすることをなるべく早く実施し、教員が体を休める時間を確保してほしい。よりよい教育活動を行うために。



部活動が負担になっているわけではない。処理しなければいけない事務作業、研修、出張が多いことが負担である。事務作業、研修、出張を企画や考案している人たちが部活動を減らすことが働き方改革だと思っているので前に進まない。

自分の専門外の部(経験のない部)をもつのは本当に苦しいです。部を自分で選択できるようにするか、そうでなければ外部に移行してできる形が一番良いと思います。



部活動は授業とはまたちがう生徒の姿を見られる場なので大切だと思うし、その中の変容から教員として気づくことや学ぶことが多くあるので、学校から切り離して欲しくないと思っている。好きなことに純粋に、ひたむきに努力する姿勢から、さらに伸ばしてあげたいと感じることも多くあり、指導法の工夫も多く生まれる。若手の教員もそこから多く授業や生活指導は生かせることもあるので積極的に参加させるべきであると思っている。



会長
佐々木 秀幸

井荻中学校では、杉並区教育委員会の、「地域とともにある学校づくり」の方針に基づき、学校と保護者、地域のひとびとが知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させるという目的で、いち早く運営協議会を立ち上げました。

本年度のテーマは「働き方改革と部活動の活性化」として取り組んで参りました。その一環として、教員、生徒、保護者にアンケートを行い、結果をまとめました。今後の学校運営に寄与できれば幸いです。



校長
今橋 英次

私は教員時代にバレーボール、サッカー、吹奏楽、バドミントン、野球の5つの部活動の顧問を経験しました。いずれも自分でやったことのないものばかりです。それでも生徒たちは、練習でも試合やコンクールでも「先生、先生」と慕ってくれました。3年生が最後の公式戦やコンクールを終えたとき、ともに涙したことは今となってはよい思い出です。ただ、自分の家族には迷惑をかけたと思います。働き方改革と部活動の活性化は困難な課題ですが、必ず何らかの方法はあると信じています。教育活動へのご理解とご協力を今後どうぞよろしくお願いいたします。